

特集

まちづくりの現場から

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために、町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを毎月シリーズで紹介するものです。今月は、「松尾山のお田植祭」の継承に向けた取り組みを紹介いたします。

まちの伝統を 地域の力で 次代に継承

松尾山のお田植祭の歴史

毎年4月、西友枝松尾山で行われる「お田植祭」。天下泰平、五穀豊穡を年の始めに神前でお祝いする「松会行事」のひとつとして開催され、毎年400人を超える見物客で賑わいます。祭では、地元有志からなる「松会保存会」と友枝小学校児童により、稲作の所作を演じる「田行事」、鉞や長刀を使った「刀行事」のほか、笛や太鼓、ピンササラを使って踊る「色衆楽」などが演じられています。

松会とは本来、神幸祭、田行事、刀行事、色衆楽、弊切り行事をはじめとする各種の祭礼からなる修験道場最大の祭です。英彦山六峰の一つ、松尾山には医王寺がありました。医王寺の松会は鎌倉時代頃に始まり、室町時

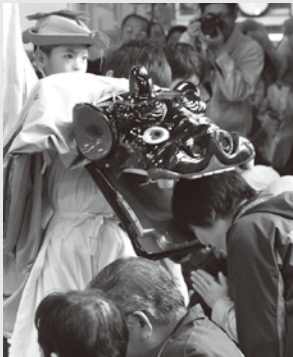
代には松柱を立てて弊切り行事を行うなど盛んになります。しかし、戦国時代には大内、大友両氏の争いによる兵火により諸堂を焼失し勢いは衰えますが、江戸時代になると小倉藩主小笠原家の祈願所となり、寺院の主要施設が再建されるなど厚い庇護を受け、寺域も拡張され大きく発展します。しかし、明治初めの神仏判然令や修験道廃止令など、我が国の宗教政策転換の影響を受け、以降は神社として存続しています。

豊かな自然に恵まれたこの地域で、800年以上守り受け継がれてきた「松尾山のお田植祭」。この大切な祭を地域の力で次代に継承していきます。



大切な祭をみんなでサポート

現在、お田植祭は15名の「松会保存会」が中心となって継承しています。一方「この祭りをもっと盛り上げよう」と地域の方をはじめとする多くの人たちが支えています。



神幸行列の再現

平成21年度に町が下宮跡の用地を取得し、お田植祭を行う松庭の整備を行いました。翌年から地元住民の力により中宮の御輿庫内に安置されていた御輿が、下宮まで巡行する「神幸行列」が再現され、祭りに賑わいが戻りました。



松尾山周辺の整備

町では平成18年度から修験道遺跡の発掘調査を行い、確認された遺跡の主要部分の整備事業を開始しました。これまで山内に案内板や説明板を設置し、参道の石畳やお旅所、松庭の復元整備を行っています。



松尾山の歴史を 展示

松尾山の麓に建つ「ゆいきらら」の修験道展示室には、松尾山で継承されている「お田植祭」に関連する祭具類のほか、山伏達が使用していた八卦占いや峰入修行に関連する道具類が展示されています。

また、修験道の概要を学ぶためのガイド施設としての役割もあります。松尾山の散策前に立ち寄れば、山内のことを詳しく知ることができ、山歩きをより一層楽しむことができます。

●問い合わせ先 教務課文化財保護係 TEL 72-2111(内線314)



昭和29年4月19日に行われたお田植祭「学み女と牛」

お田植祭継承の歴史

松尾地区による継承

修験道廃止後は、還俗した松尾地区の人々が長い間継承してまいりました。しかし、生活環境や就業形態などの変化とともに松尾地区を去り、松会の担い手が減少し始めました。「松会」とよばれる一連の行事を挙行するためには、多くの人や多額の経費が必要になります。人口減少に歯止めがかからない中、松尾地区だけの継承が危ぶまれました。旧医王寺伽藍の維持や「松会」の継承がいよいよ困難になり、演目の内容や数が縮小され、田行事が「お田植祭」として残るのみとなりました。



松会保存会発足

昭和46年から昭和60年代初め頃まで、松尾地区の人口減少による「お田植祭」存続の危機を受け、継承活動は西友枝地域の青年団に託されました。昭和46年に「松尾山のお田植祭」が、青年団活動の一環として福岡県青年大会「郷土芸能の部」に出演し優勝。続く全国青年大会「郷土芸能の部」で優秀賞を受賞しました。同年の県指定無形民俗文化財への指定をきっかけに、地元住民や地域の青年団、西友枝小学校児童ら50名ほどからなる「松会保存会」が発足しました。活動は青年団活動として行われていましたが、昭和60年代初め頃になると青年団活動の衰退により、活動の主体は西友枝小学校へと移りました。

西友枝小学校児童による継承

昭和43年以降、青年団活動として継承する一方、地域の民俗芸能を学び後継者を育成するため、昭和43年4月に西友枝小学校に赴任した教諭が、口伝であった田植歌や楽打ちの曲を楽譜に書きとり、児童へ演奏や演舞の指導が試みられました。これを契機に「お田植祭」の継承は、同校児童によっても行われるようになりました。以後、地元の三社神社の祭りには小学校児童が出演し、対外的なイベントには青年団が出演する状況が昭和60年代初め頃まで続きました。

松会保存会の再結成

平成8年に大分市で開催された国際民俗芸能フェスティバル・九州地区民俗芸能大会に西友枝小学校児童が出演した際、当時の文化庁調査官や大学などの学識者から「お田植祭は山伏という屈強な大人が演じていたもの、子どもでは山伏のイメージが伝わらない。縦笛によるお囃子は修験道の特徴である悠長なリズムを損なっているので、横笛に戻し大人が演舞できないものか」という意見がありました。一方、西友枝小学校における児童数の減少は深刻な問題で、近い将来にはお田植祭の全演目を行うことはできなくなるので、その後の対応を考えて欲しいと要望がありました。これらの意見を受けて保存会で協議し、青年団の頃に演舞していた会員を中心に保存会を再結成しました。地域の民俗芸能であり後継者を育てる意義からも、子どもたちが民俗芸能とふれあう機会を設ける必要があることから、小学校に演目の一部を担当してもらうことになりました。

西友枝小学校の統廃合

平成22年以降、田行事の一部を継承していた西友枝小学校は、児童数の減少により平成22年に廃校となり、以後、継承は統合先の友枝小学校児童によって行われるようになりました。5年生の2月から松尾山における修験道の歴史やお田植祭の歴史を学んだ後、田行事演目の中の「田打ち」と「田植え」の練習を行い、6年生になった4月に保存会とともに松尾山で披露しています。